

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2011年7月）の予測

発表日：2011年8月31日（水）

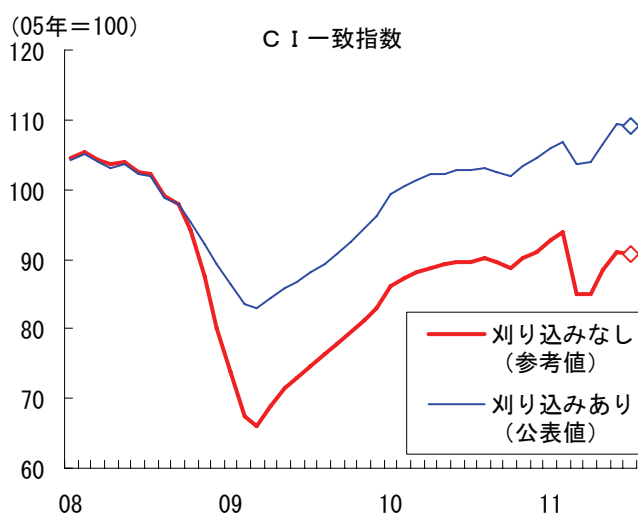
～低下が予想される7月のC I一致指数～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から9月7日に公表される2011年7月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差▲0.3ポイントが予想される。5月に同+2.7ポイント、6月に同+2.7ポイントと急回復していたが、7月は前月差マイナスに転じる見込みである。一致指数の内訳では、速報段階で用いられる9系列のうち、プラス寄与は有効求人倍率と鉱工業生産指数の2系列のみであり、残りの7系列はマイナス寄与になる見込みである。5、6月はすべての系列がプラス寄与だったことを考えると、状況は様変わりだ。なお、C Iの公表値よりも景気の実態をより正確に示していると考えられる「刈り込みなし」の系列についても、7月は前月差▲0.3ポイントが予想される。

7月のC I一致指数が低下する見込みであることは、サプライチェーンの復旧を背景とした生産の急回復局面が6月まででほぼ終了したことを示すものと言えるだろう。今後は、需要側の要因が生産に大きく影響する局面に移行していくと思われる。だが足元では、海外経済の下振れリスクの増大に加え、円高の進行もあって、輸出の先行き不透明感が急速に強まっており、需要が先行き順調に増えていくかどうかは心もとない状況になってきた。景気の改善ペースはこれまでよりもはっきりと鈍化する可能性が高く、海外景気次第では下振れも十分考えられる。景気の先行きは決して楽観できない。

なお、7月のC I一致指数は単月では低下が予想されるものの、3ヶ月移動平均では引き続きプラスを保っているため、内閣府によるC I一致指数の基調判断は「改善を示している」が維持される可能性が高い。また、7月のC I先行指数は前月差+2.7ポイントと、5、6月に続いて高い伸びが見込まれる。



(出所) 内閣府「景気動向指数」。直近の値は第一生命経済研究所による予測値